

## 第4部 産婦人科医師が考える 助産婦の役割

### 1. 調査対象者の年齢 (表4-1)

調査に回答していただいた産婦人科医師の年齢は、「40～44歳」が28.1%と最も多い。次いで「35～39歳」である。

### 2. 現在の施設での勤続年数 (表4-2)

現在の施設での勤続年数は、「4年未満」が最も多く、37.7%である。次いで「5～9年」が24.9%と、比較的勤続年数が短い。

### 3. 助産婦に任せている業務 (表4-3)

8割以上の産婦人科医が助産婦に任せている業務は次の5つであった。「妊産婦個別保健指導」81.4%、「妊産婦集団保健指導」93.6%、「分娩監視装置・胎児心電計使用」84.7%、「正常分娩介助」88.2%、「産褥期の乳房管理」97.5%。

### 4. 助産婦の教育内容を知っているか (表4-4)

「助産婦の教育内容をご存じですか」という問いに、「よく知っている」と答えている割合は、14.9%で、最も多い答えは「ある程度知っている」65.3%であった。

### 5. 助産婦業務の法的な位置付けを知っているか (表4-5)

「助産婦業務の法的な位置付けをご存じです

か」という問いに「よく知っている」と答えている割合は16.2%で、最も割合が高かったのは「ある程度知っている」60.0%であった。

### 6. 助産婦が専門性を発揮しているか (表4-6)

「貴院では、助産婦がその専門性を発揮して仕事をしていますか」という問いに76.1%が「はい」と答えている。また「いいえ」と答え

表4-1 調査対象者の年齢

25～29歳	25 ( 3.1)
30～34歳	96 ( 12.0)
35～39歳	159 ( 19.8)
40～44歳	225 ( 28.1)
45～49歳	102 ( 12.7)
50～54歳	79 ( 9.8)
55～59歳	65 ( 8.2)
60歳以上	47 ( 5.6)
無回答	5 ( 0.6)
合計	803 (100.0)

表4-2 現在の施設での勤続年数

～4年	303 ( 37.7)
5～9年	200 ( 24.9)
10～14年	122 ( 15.2)
15～19年	75 ( 9.3)
20～24年	38 ( 4.7)
25～39年	19 ( 2.4)
30年以上	15 ( 1.8)
無回答	31 ( 3.9)
合計	803 (100.0)

表4-3 助産婦に任せている業務

% N=803

	任せて いる	緊急時の み任せて いる	任せて いない	今後は任 せたい	無 回 答
妊娠診断	5.4	5.7	85.8	2.1	0.9
妊婦定期健診	10.0	6.5	77.0	5.7	0.9
妊婦の超音波診断	1.7	2.5	92.4	3.0	0.4
妊産婦個別保健指導	81.4	3.2	6.8	7.0	1.5
妊産婦集団保健指導	93.6	1.0	1.6	2.9	0.9
分娩進行の診断(内診)	76.5	16.1	5.0	1.1	1.4
分娩監視装置・胎児心電計使用	84.7	8.5	5.4	0.9	0.6
母体の酸素吸入	68.6	26.3	4.1	0.5	0.5
人工破膜	48.3	30.8	19.3	1.0	0.6
正常分娩介助	88.2	5.7	4.2	1.4	0.5
会陰切開術	11.6	30.0	55.2	2.9	0.4
軟産道裂傷縫合術	2.9	5.9	88.3	2.5	0.5
子宮収縮剤使用	28.6	18.3	51.6	0.9	0.6
胎盤用手剝離	2.0	8.1	87.9	1.7	0.2
吸引分娩	0.4	1.7	97.3	0.4	0.2
骨盤位牽引術	0.9	5.0	92.0	1.6	0.5
子宮・膣強填タンポン挿入	1.7	13.5	82.9	1.1	0.7
膣洗淨	31.9	12.2	49.9	4.1	1.9
産褥期の乳房管理	97.5	0.7	0.5	0.2	1.0
褥婦1ヵ月健診	4.6	3.1	86.9	3.7	1.6
新生児仮死蘇生術(用手的)	9.0	43.1	45.8	0.7	1.4
気管内挿管による新生児仮死蘇生術	0.9	1.6	94.8	1.1	1.6
簡易人工呼吸器(バックアンドマスク)使用	8.2	39.9	47.4	2.5	2.0
陰陽圧新生児仮死蘇生器(レスピレーター)使用	2.5	11.2	81.6	0.4	4.4
新生児への酸素投与	29.8	46.0	21.7	0.6	2.0
新生児モニター使用	31.3	19.8	41.0	2.0	6.0
ブルーライト使用	46.7	6.7	39.6	0.5	6.5
V.K <sub>2</sub> 投与	66.7	2.5	26.2	0.4	4.2
新生児1ヵ月健診	4.0	1.9	85.7	1.9	6.6
皮下注射・筋肉注射	66.3	7.5	22.0	0.9	3.4
静脈注射	48.4	13.0	33.9	1.6	3.1
点滴静注による輸液	47.8	13.9	33.1	1.7	3.4
非観血的心臓マッサージ(新生児)	3.9	34.1	57.0	1.0	4.0

表4-4 助産婦の教育内容を知っていますか

よく知っている	120	( 14.9)
ある程度知っている	524	( 65.3)
あまりよく知らない	134	( 16.7)
まったく知らない	12	( 1.5)
無 回 答	13	( 1.6)
合 計	803	(100.0)

表4-5 助産婦業務の法律的な位置付けを知っていますか

よく知っている	130	( 16.2)
ある程度知っている	482	( 60.0)
あまりよく知らない	163	( 20.3)
まったく知らない	13	( 1.6)
無 回 答	15	( 1.8)
合 計	803	(100.0)

表4-6 貴院では、助産婦がその専門性を発揮して仕事をしていると思いますか

はい	611 (76.1)
いいえ	149 (18.6)
無回答	43 (5.3)
合計	803 (100.0)

ている18.6%の産婦人科医に、そのように思われる理由をフリーアンサーで記述してもらうよう調査票を設計したが、「いいえ」と答えても、その理由を記述したものはなかった。

#### 7. 所属施設の助産婦の今後の課題（フリーアンサー）

所属施設の助産婦の今後の課題について、フリーアンサーで答えてもらった。その結果、「うちの助産婦はよくやっている」という肯定的な意見もあったが、ここではあえて助産婦に求められている課題を中心に紹介する。

最も多かったのは助産婦の員数確保に関することで、「もっと人がいれば、いろいろなことができる」という意見である。その他に多かった意見を記述すると、「NST・CSTなどの習熟」「ハイリスク妊婦へのケアの向上」「異常の早期発見」「外来の充実と病棟との連携」「個別・集団指導の強化」「知識・技術共に医師と同等のレベルになること」「若い助産婦とベテラン助産婦の知識・技術・認識の差を是正してほしい」「産科救急の処置を学んでほしい」「プロ意識を持ってほし

い」「分娩監視を密に行ってほしい」「正常分娩は積極的に取り組んでほしい」「ベッドサイドでの親身な看護やアドバイスを行ってほしい」「院外研修にもっと積極的に参加してほしい」「専門職としての助産婦の職務・職責を明確にしてほしい」「学会での発表を積極的にしてほしい」「合併症妊婦の管理や他科疾患の理解」など。

また、医師に頼らず主体的に仕事に取り組んでほしいという意見に代表されるように、医師は所属施設の助産婦に、より積極的な業務姿勢を求めている。

#### 8. 助産婦に期待すること（フリーアンサー）

助産婦に期待することをフリーアンサーで答えてもらった。その結果、先の「貴院の助産婦の今後の課題」と同じような意見が多い。「ME機器の理解、習熟」「救急時の対応をしてほしい」「妊産婦への思いやりを持ってほしい」「保健相談を実施してほしい」「帝王切開の時など医師の助手になってほしい」「外来から入院・退院への一貫したケアを行ってほしい」「ただ医師の指示に従うのではなく自分からもっと知るようになってほしい」「正常分娩には責任を持ってほしい」「プロとして自己を磨いてほしい」など、ここでもまた、業務に対する助産婦への積極的姿勢に関する意見がみられた。これらの意見は、助産婦に対する批判というより、助産婦への期待から出ている意見ではないかと思われる。